平成２５年度第１回山梨県文学館協議会議事録

日　時：平成２５年７月１９日　午後２時～
場　所：県立文学館研修室
参加者：別添資料のとおり
内　容：
◎事務局から、資料により、平成２４年度事業の報告及び、２５年度事業予定について説明。

●会長
　ただいまの事務局からの説明について、意見や質問がありましたらお願いします。

●Ｃ委員
　初めて来て、よく分からないこともあるが率直に言わせていただきます。文芸協会で事務局次長をしているが、私がここに来ていいのかとの印象があります。文学館は立派な人がいて、一般の人には敷居が高いところがあります。そのためにも県内の図書館の司書との交流とか、もうやっているかもしれませんが、そのようなことを通じて、ともに語り、ともに考える場所にできたらいいかと思います。
　今回、ゾロリ展をやって、子ども向けの取り組みをされているが、今後は高齢者向けの生涯学習の場としても、工夫をしていただきたいと思います。

●事務局
　貴重な意見に感謝します。堅いイメージがあるとのご意見ですが、親しみやすい企画となるよう心がけたい。人事交流については、資料情報課の職員は全員が司書で、県立図書館などと交流をしています。また、学芸課の教育普及担当の職員は、小中高の教員であり、私も高校の教員ですが、そのようなことで交流をしています。
　明日からは怪傑ゾロリ展が始まるが、前回の富士山と文学展など趣向を変えて、ハードも含めてニーズに応えていきたいと思います。

●会長
　私の感想でも、各館の事業交流、人的交流が盛んになって、県立図書館の司書が来て、そういう意味では柔軟になってきています。今後、ますますそういう方向になっていけばいいと思います。

●Ｄ委員
　先ほどの説明で、俳句などの学校への出前授業の説明がありましたが、回数の実績を教えてください。

●事務局
　＜資料１３頁、１６頁を引用して状況を説明＞

●Ｌ委員

私は図書館の方にも関わっていますが、文学館が怪傑ゾロリを大々的にやるということで、図書館側はショックを受けています。ゾロリは子どもに非常に人気があり、文学館が扱うものは、とてもいいものとの印象があるが、今回は人気があるからやるといった感じで、図書館は子どもに良書を与えようと活動しているので、先ほど文学館と図書館の交流の話があったが、人的交流だけでなく、事業に関しても相談できるといいと思います。良書が必ずしも堅いというのではないが、図書館関係者からは私が文学館協議会の委員をしているのにゾロリを何故認めたのかということも言われました。私がこの企画のことを聞いたときには、既に開催が決まっていたと答えたのだが、夏休みの企画は子どもたちも楽しみにしているので、図書館ともよく相談してもらいたいと思います。

●事務局

貴重な意見をありがとうございます。文学館では展示の企画を前年に決めているが、複数の企画展、特設展のバランスを考えています。

ゾロリ展については、朝日新聞に載っていたが、九州の方の学校で取り上げていて、文部科学省も認めていることを踏まえて選定している。作者の原ゆたか先生も、子どもたちの活字離れが危惧されている今、それを止めるひとつの手段となればと力説されており、私たちもそのような考えを汲みながら、前述の九州の学校の例なども参考に、展示のテーマを考えたときに、図書館との意見交換は大切だが、文学館としての主体性を大切にし、時間をかけてテーマを決めていきたいと考えています。

●会長

私は、県立図書館の協議会委員もしているが、図書館もいろいろな企画をしてとても多忙だが、司書さんたちは主体性を持つことの重要性を言っている。これは大切なことだが、多方面と連携すること、小さい県だからこれも可能で、以前にくらべたらずいぶん良くなってきているから、事務局としても主体性は大事だが、乙黒委員か言うようなことにも配慮して企画するようにしていただきたい。

●Ｋ委員

今までの意見と重なるが、文学館が県にあることは誇りだし、私も国語の教育者として、これからも大事にしていきたいと思っている。蔦木委員から文学館は堅いといった意見があったが、だいぶ柔らかくはなってきたが、全体的に堅い感じはある。

昭和３０年代には、県立図書館の記録によれば、県内に文学作品の読書会が２００以上あった。それが平成２０年には１０分の１以下、１９になった。これは三枝館長さんがおっしゃるように文学の環境が激減しているのも背景にあるのだろうが、逆に我々は、文学館を拠点にこれに歯止めをかけなくてはいけないと思います。

私は教育の現場にいるので、子どもと文学の関係に接することがあるが、先頃、家庭謹慎となった生徒が、本を読んで感想文をかかされるということがあって、その生徒は、初めてこんなに本と深く関わったと言っていた。本の内容に関して、親と会話が深まっ

た。先生と話した。また、教師に質問して、教師がコメントして返すといったやりとりをしているとだいぶ変ってくる。今まで手前勝手だったのが、人には感情がるということが分かってくる。何が言いたいかというと、文学館が中心となって文学作品が復興できないかと言う思いがあるのです。図書館でも取り組みをしているが、これが連携、連動して、個人的な経験だが、この６月に東京芸大で、漱石の絵画展があって、「三四郎」の美禰子の肖像画も、こういうイメージだろうというものが展示されていて、こういった取り組みは、美術館もあるここの環境ならできるんですね。それから朝日新聞で読書の甲子園というのをやっていましてね、これはみんなで読んで、感想をイラストで表現して最終的に絵にするわけです。文学と絵画芸術と集団読書といろんなものを融合していく、そんなことができるのではないかと思いました。

今日来て思ったのですが、噴水の水が止まっているのをどうにかできないか、考えてみてください。

●指定管理者

私ども指定管理者は、美術館・文学館・公園合わせての管理なので、合わせて何かできないか考えている。私どもは他県でも同様の指定管理をしているが、本県の特色は、教育普及事業がとても充実している。他県では、担当一人が他と兼務しているようなこともある。私どももこのような本県の特色に沿って事業展開したいと考えている。

噴水のことについては、非常に厳しい状況にある。震災以降１０％以上の電気代が上がっていて、私も赴任してから噴水が動いているところを見たことがない。これは県とも相談して対応していきたい。

●会長

ＳＰＳも当初と比べると、いろいろな事業がでてきて、かなり柔軟になったと思いますので、また努力してください。

●Ａ委員

初めてで分からないことが多いのをお詫びしますが、近頃の子供さんを見ていると、活字離れをしていて本を読まないという話をよく聞きます。学校の方では、朝読書というような時間を設けてがんばっていますが、学校訪問をすると、一人平均で１００冊読んでいる学校もあります。学校の図書室の司書を中心とした読み聞かせ、あるいは地域の図書館もがんばっている状況がある中で、子供たちをどうやってこの文学館に導いてくるのかですが、これはハードルが高いのではないか、というのは、子供にとって文学館というのが、あまりに遠いというか、難しいといった感じを持っていると思っています。そこで教育普及があるのですが、学校は生徒を教育普及で文学館へ来させるのは、総合課程の一環なのか、あるいは校外事業として行っているのか、また利用する学校の地域性はあるのか、さらに、文学館からの働きかけとしての教育普及事業はどうなのか聞かせてください。

というのも、私は峡東地域の出身ですが、この地域は飯田蛇笏のふるさとで、俳句については熱心に教育をして俳句大会もあります。その子供たちが、文学館に来て龍太の

資料を見ているのかというところが気になりました。

●事務局

貴重な意見ありがとうございました。多くの学校が文学館を授業で利用しています。地域性と言えば、身近の新田小学校は４～６年生が毎年定期的に利用しています。また文学館からのはたらきかけでは、アウトリーチで出向いて授業もしています。教育委員会にお願いがありますが、各学校には足が無いといった問題があります。行きたいけど行けないという声をよく聞きます。どうしても遠いところはいけないといった現状があります。

●会長

各市町村立図書館には移動図書館があるが、文学館も移動文学館というか、図書館と連携してそのような活動ができたらと思います。

他に意見が等がなければ、事務局から２６年度に向けての活動について説明してください。

◎２６年度事業について配付資料を使い事務局から説明

●会長

文学賞について、地元紙の協力もいただいているのですが、最近は県民からの応募が少ないのと、県民の受賞も途切れてしまったという状況です。質問や意見はありますか。

●Ｃ委員

山梨は８０数万人くらいの人口で、こういう状況ですが、他県ではどうなのでしょうか。

●事務局

他県の事例を持ち合わせていないが、県で文学賞を持っていることが少ない、あるいはやめてしまったところもある中で２２回やっているのは、がんばっていると言えると思います。

他県の状況も調べてみたいと思います。

●事務局

茨城県に、長塚節（たかし）文学賞というのがあって、短編小説・短歌・俳句の三部門ですが、規模は当県よりずっと小さいのですが、小説部門は県民の応募率が少なく、ほとんど茨城県民は受賞していないです。一番いいのは、文学賞の信頼が高くなると県民がチャレンジしようとする気持ちが高くなることで、応募者を増やすためにレベルを低くするのは間違いです。いかに関心を高めるかが重要です。

●会長

かつては、どこの県でも同人誌が沢山あったが、今はすごく減っている。これも問題だと思いますがどうでしょうか。

●事務局

私たちの教育普及でも、大学巡りなどもしているので、こういった機会で働きかけたいと思います。

●事務局

私も山梨文学賞を受賞しているが、この賞をとってから運が向いてきたこともあって、大切な賞なんですが、今年の小説部門の受賞者は沖縄の方で、この間、単行本になりましたが、とても良い作品です。あれだけ良い作品を選べたことは、文学賞として誇っていいと思います。しかし、いいものなのに受賞作品が文学の世界で、あまり受け入れられないという問題があります。評論部門では、波紋が広がるように話題になるのですが、小説部門はそうならないので、皆さんの知恵も借りて工夫してみたいと考えています。

●会長

今般、芥川賞、直木賞も決まりましたが、これらの賞も内容が変わってきていて、芥川賞もこれはどうか、というものもあります。一方先ほどの山梨文学賞の「探骨」は、私も読んでいて涙がでてきましたが、これが若い世代には感じ方が違っていて、今日は大学の先生方もいらっしゃいますが、どうなのでしょうか。

●G委員

今の学生は、全体に文学への興味が低くなっているというのはあります。この問題にどう取り組んでいくかですが、小説部門は未発表作品なので、知らないという現状がありまして、賞金が１００万円ということも知らなくて、知っていればもっと関心が集まると思いますが、広報に工夫すれば、やってみようという人もいると思いますが、ほっといても集まってくるという状況ではありません。

●H委員

私どもの大学でも、小説を学生に書かせるゼミがあります。でも、それと賞をとるというのは全然別のレベルです。山梨文学賞も全国区になってレベルが上がれば、地元の人が受賞しにくいというのは、あたりまえの事かもしれません。小説家を目指していても、やはりだめで就職する人もいて、どんどん書けと啓発するのも難しいことで、県内の受賞者を増やさなければいけないというのは少し違うとも思います。

●会長

確かに、今の日本の大学で、文学部関係も減っているし、芸術関係も減っているんです。若い人も生活していくためには、実益の方に目が向いて余裕がないのでしょう。このままでは困るので、文学館にはがんばってほしいのですが、山梨文学賞には、県民が賞はとれないにしても、県内応募者が増えるように、教育委員会も図書館も一緒になっ

て、地元紙にも応援してもらってやっていただければと思います。

●Ａ委員

これが文学賞の中身に適しているか分からないのですが、先ほど館長さんが言われた、質を高めることで注目を集めることが重要とのことですが、一方で応募数が減っている。今後さらに減ることが懸念されるわけで、質は高くなくても、文学賞のジュニアとして中高生を対象に、原稿の枚数も少なくして、それで応募数が増えるか分かりませんが、文学書のジュニア部門を作って実施してはどうでしょうか。

●事務局

若者を育てるのも、一つの視点として重要と思います。山梨文学賞は、今回２２回ですが、５回、１０回、１５回と節目の時には、検証しているので、今のご意見も持ち帰り、検討したいと思います。

●会長

事務局で、平成２６年度事業で、他に何かありますか。

●事務局

資料の２６ページをご覧ください。既に報道されていますが、来年度前期のＨＮＫの朝の連続テレビ小説が、村岡花子を主人公とすることになりました。村岡花子は常設展でも取り上げておりますので、これに関してはきちんと何かやりたいと考えていいます。ただ、いつからどのような内容で、どの程度できるかは、相手様もあるし、予算のこともあるので、未定ですが、ＮＨＫとも連携していきたいと考えています。

●会長

来年の朝のドラマは村岡花子さんの生涯を取り上げるようですが、英和の教員もやっていたとのことで、英和の大学や高校とも連携して、図書館とも連携して、文学館でやっていただくということでしょうか。これに関してどなたか何かありますか。

●Ｆ委員

ＮＨＫ甲府放送局も、いまのところパンフレット以上の情報がないものですが、ロケは今年の１１月から始めるとのことです。原案がお孫さんの作ですが、これに話を付け加えてストーリーを作るとのことです。朝の連ドラにはジンクスがあって、タイトルの最後に「ん」がつく作品はヒットすると言われているそうです。今日の話題として提供します。

●Ｈ委員

英米の児童文学書で、絵本のきれいなものが沢山あると思います。これを集めて展示するのはどうでしょうか。赤毛のアンなど、子供さんが楽しめるのではないでしょうか。

●会長

村岡花子を題材としての展示会であれば、そういうことも重要と思います。事務局では参考にしてください。他に２６年度事業について何かありますか。

◎学術文化財課担当者から、資料２８ページにより、文学館の指定管理者の更新等に関する事務手続き及び、その進捗状況を説明。

●会長

では、予定した議事は終了しますが、その他で何かありますか。

●Ｊ委員

文学館では、幅広い層を対象として、多くのイベントを企画して、来館者を増やそうと努力していることがよく分かりました。皆さんも文学館に親しみを感じていると思います。文学館には貴重な優れた資料が沢山ありますから、その利活用にはさらに力を入れていただきたいと思います。また、展示室での対話というか、ただ静かに観覧するのではなく、わかりやすい説明などあればよいと思います。よく美術館や文学館は、非日常の世界と説明されますが、私は、その壁をとっぱらって、日常とつながることも重要と考えます。あるレベルに達したかたが利用する文学館の役割もありますが、やはり日常の生活の中に溶け込んで文学の楽しみを味わえる展示のあり方も重要と思いますので、よろしく検討をお願いします。

●会長

確かに、美術館、文学館は二面性がある。その両面が重要です。

他に意見が無ければ、これで協議会を閉じさせていただきます。